

1 全体のコンセプト

本提案は、機能の異なる施設を集約・複合化することで共用面積を削減し維持管理コストを抑え、余剰スペースの売却により新たなコミュニティを創出するものです。シンボル施設にふさわしく秦野市特産の落花生をモチーフとした外観とし、木造をベースにした建物計画（神奈川県産の木材を使用）とする等、環境に配慮した施設とすることで、地域利用はもちろんのこと県内外へ広く秦野市をPRする計画としています。また、秦野市を“秦野氏”という人物になぞらえ、公共施設のスリム化とシェイプアップにより秦野市の健康増進を図るものです。

“脱メタボ” !! 秦野氏（秦野市）のシェイプアップ計画

【スリム化】

- ・ **土地活用**… 体育館・プール・武道場等の平面利用している学校施設を公民館と消防署との複合施設へ集約することにより、新たに創出される空地を宅地として分譲する。
- ・ **行政財産の削減**… 上記施設が保有する各々の機能を集約・複合化して共用することで、共用面積（贅肉）を縮小し施設機能（筋肉）を拡充する。
- ・ **既存ストックの活用**… 閉鎖中の校舎（建物 1）を減築・改修し、公民館機能を有する施設へと再生利用する。

【健康増進】

- ・ **公民館機能**… 地域住民が身近に利用するコミュニティ形成の場として、教養の向上・健康増進・生活文化の振興を図る空間を提供する。
- ・ **防災機能**… 平常時は市民による防災や地域コミュニティの活動場所であり、災害時には被災者の収容や救援及び情報の伝達場所となる避難場所として防災機能を強化する。

2 複合施設及び敷地内外の複合化の概要（規模、機能、建設・管理の主体等）

- ・ **カルチャーエリア**… 既存校舎（建物 1）を再生し主に公民館施設として利用する。独立した建物となるが新設建物（体育館・消防署）と連携の取れた動線計画を確立し相互利用を図る。また、校舎とも動線を結びつけ、調理室・図書室・視聴覚室・音楽室等の施設の共有化を図り、将来的には夜間や春夏冬休み等の学校未利用時、地域住民や企業への校舎開放が可能となる。
- ・ **スポーツエリア**… 新設建物として体育館・プール・テニスコート・武道場を整備する。中学校施設として利用を優先するが、市民の体カトレーニングや消防署員の訓練等との相互利用を図る。プール・テニスコートをインドア化することにより、季節的利用から天候に左右されない年間を通じての利用が可能となる。また、災害時の防災拠点としての利用も可能となる。
- ・ **消防署**… スポーツエリアに複合して整備することで防災拠点としての利便性を高め、体育館・武道場は消防署員の訓練や防災訓練等にも活用する。
- ・ **広場・忠魂碑**… 忠魂碑と広場を機能的に配置し、遺族の方のみの利用から地域住民の憩いの空間を提供する。

- ・建設・管理…民間資金を活用した SPC を組成し、建設企業・運営企業等の専門企業による PPP 事業によりサービス水準の確保と維持運営管理費の削減を図る。

3 セールスポイント(費用対効果、スケジュール、手法、技術上の工夫等)

- ・コンセプトにあるスリム化を図る為、既存公民館・体育館・プール・武道場の敷地を売却する。これにより土地売却益と新たな税収(市民税・固定資産税)の確保が見込めると共に新しい居住者による地域コミュニティの創出と地域活性化(若返り)を図る。
- ・「建物 1」を公民館にリノベーションすることにより、既存ストックの有効活用ができ床面積の減少に伴う工期短縮や建築コストを抑えるだけでなく機能の拡充化が図れる。また、太陽光発電や緑化等による屋上利用によりエコ施設化を図り、環境学習の場としても活用できる。
- ・新設建物は、「公共建築物等木材利用促進法(H22.10)施行」に準拠した木造大断面工法を採用し神奈川県産材を使用することとで、木造による炭素の固定化と森林循環により、CO₂削減に寄与する。
- ・プールの水には井水を利用し、排水を浄化してトイレの水や散水等に利用することで、ランニングコストの抑制が図れる。
- ・地域住民がいつでも気軽に安心して利用することができる地域コミュニティの拠点とすることで、地域住民の監視が働く“安全・安心な学校”“開かれた学校”としての運営が図れる。
- ・地域住民と中学校・消防署等のコラボレーションによる様々なイベント開催が可能となり、世代間の交流や社会勉強の場としての活用が図れる。

4 利用者及び学校教育活動に配慮した点

- ・中学校・公民館・消防署それぞれの機能に支障がなく、生徒・利用者の安全確保を最優先とした動線区分としている。
- ・建物の複合化が人の複合化を生み出し、地域コミュニティの場の創出とそこから生まれる人の交流を促進する。例えば、市民と中学生によるコラボレーション(料理教室・音楽発表・体育祭等)や消防署と中学生・市民とのコラボレーション(防火・防災教育、救急講習、防災訓練、体カトレーニング、職場・職業体験等)。
- ・計画地内の緑化や木造建物、既存ストックの再生、太陽光発電や屋上緑化など環境に配慮した施設とすることで、環境意識の醸成が図れる。

要項の内容を熟知し、検討素材として採用された場合は、その内容が氏名等とともに公表されることに同意のうえ、上記のとおり応募します。

応募者の氏名又は法人名	大和小田急建設株式会社	
応募者の住所又は所在	東京都新宿区西新宿 4-32-22	
連絡先	電話	03-3376-3119
	メール	sugita-t@daiwaodakyu.co.jp

※ 太枠内を記入し、2ページ以内にまとめてください。

大和小田急建設株式会社